



守ります 人と自然とこの地球

気象庁 沖縄気象台

●こんな仕事をしています

仕事内容 気象庁は、大雨や暴風、地震と津波、火山噴火などの自然現象を常時監視するとともに、気象、地震、津波、火山活動などに関する情報を発表しています。気象庁が発表する情報は、自然災害から国民の生命・財産を守るための防災気象情報のほか、交通の安全を支援する交通安全情報、農業、電力、観光など各種産業活動を支援する産業情報、国民の日常生活に役立つ生活情報、さらには人類の将来に警鐘を鳴らす地球温暖化など地球環境に関する情報などがあり、多方面で多様な役割を果たしています。

組織 気象庁は国土交通省の外局です。中枢機関として、東京に気象庁（本庁）があり、地方支分部局の一つとして那覇市に沖縄気象台があります。沖縄気象台の下部組織として、宮古島・石垣島・南大東島に地方気象台、那覇空港に測候所があり、沖縄管内の職員数は、約210名です。

●採用実績

試験区分	R3年度	R4年度	R5年度
行政	4名(0)	4名(1)	3名(2)
物理	64名(8)	63(11)	72(12)
デジタル・電気・電子	10名(0)	4名(1)	3名(0)
化学	4名(0)	24名(5)	8名(2)
土木	1名(0)	8名(1)	3名(1)

対象試験区分

<一般職試験>

行政
物理、デジタル・電気・電子、
化学、土木

※技術系は全国採用、事務系は沖縄管内採用
※（ ）は女性の内数



●採用されたら

配属先

技術系区分は、全国の気象官署に配属されます。行政区分は基本的に沖縄管内への配属となります。

業務内容

技術区分の採用者
→観測予報業務、地震火山業務、地域防災業務に従事
行政区分の採用者
→総務部門の総務、人事、福利厚生、会計事務に従事

研修

採用直後に人事院主催の新採用職員研修や気象大学校（千葉県柏市）の初任職員研修を受講します。その後、経験を積むと専門の研修を受けることができます。

異動

概ね3年を目処に沖縄気象台及び県内各出先機関を基本として異動します。その他、気象庁本庁又は全国の気象官署へ異動することもあります。

●職場の魅力PR

私たちは、台風や集中豪雨、地震や津波等に対する防災気象情報や天気予報等といった、日々の生活に欠くことのできない情報を発表しています。この発信する情報が国民生活に大きく影響を及ぼすことを常に意識し、住民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などを実現することを任務とし緊張感と責任感を持って日々業務を行っています。また、正確な情報を提供するために、職員がチームで調査研究も行っており、その研究成果を発表する機会もあります。日々の業務もチームで交替制により行われますが、緊張感の中にもアットホームな雰囲気のある職場です。業務外では、野球、テニス、バドミントン、マラソンなどのスポーツを楽しんでいます。

●先輩からのメッセージ

私は大学で気象学や海洋学などについて学び、それを活かせる仕事に就きたいと思い、気象庁に入庁しました。

現在は沖縄気象台で観測当番として沖縄管内の気象状況や観測データを監視しています。業務は主に気象の目視観測・通報、観測測器障害時の対応、アメダス等観測データの確認を行っています。また、アメダスの現地での点検や沖縄レーダーの遠隔点検を行うこともあります。最近では予報補助当番に入ること多いため、観測業務だけではなく予報業務に携わることも増えています。これらの業務は国民の安全な生活に関わることなので、とてもやりがいの感じる仕事です。

まだまだ覚える仕事は多いですが、先輩方が優しく教えてくれるため、分からないことを聞きやすい職場です。気象庁は気象、地震、火山、海洋などの様々な分野があり、転勤もあるため、様々な経験ができます。また、研修でも様々なことが学べ、スキルを身に付けることができます。気象庁で皆さんと働ける日を心よりお待ちしております。（令和5年4月採用 一般職物理 K.Y）

ある日(昼勤務)のスケジュール

- 08:30 出勤、夜勤者からの引継ぎ、メールの確認
- 09:00 定時観測・通報(09時、12時、15時)
- 09:30 日点検(前日の管内の障害履歴や観測データの確認を行う)
- 11:00 定時通報の1時間前に雲量・大気現象の観測
- 14:00 沖縄管内の打ち合わせ
- 17:00 夜勤者への引継ぎを行い、退庁

●連絡先

〒900-8517 沖縄県那覇市樋川1-15-15（那覇第一地方合同庁舎）
 沖縄気象台総務課人事係 TEL：098-833-4281（内線515又は516）
 ホームページURL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/>

